

世界の人びとのための JICA基金

ニュースレター2021



世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。

寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。



2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。

SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること（グローバル・パートナーシップ）も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」（JICA基金）です。

2020年度も、多くの方々や団体の皆様の寄附により、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、教育の機会の提供等において、12件の活動を支援することができました。

皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。

JICA基金活用事業の紹介

(2019年度採択案件)

団体名／活動国（報告掲載ページ）

事業名/
活動期間 *1

<通常枠>

特定非営利活動法人礎の石孤児院／ザンビア（P10）

ザンビア共和国:孤児およびストリートチルドレンのための奨学金支援事業
2019年11月-2020年11月

特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会／ルワンダ（P9）

ルワンダのコーヒー生産地における持続的生産にむけた土壌改良及びポテト臭解決のための支援
2019年12月-2021年8月

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会／ボリビア（P10）

アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出
2020年1月-2021年4月

<チャレンジ枠> *2

根本千里／ルワンダ（P9）

グルテンフリーやビーガン商品を扱うベーカリー事業を通じたルワンダ女性の自立支援
2019年10月-2021年9月

*1 通常、活動期間は1年以内としておりますが、コロナ禍を理由に活動の中断を余儀なくされたため、通算で1年を超える活動を行われた団体等もあります。

*2 チャレンジ枠は、経験が浅く、実績の少ない個人・団体を対象としております。

JICA基金活用事業の紹介

(2020年度採択案件)

団体名／活動国 (報告掲載ページ)

事業名

活動期間 *1

<通常枠>

NGOネパール『虹の家』／ネパール (P7)

2015年ネパール大震災 被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくりと学校教育支援事業

2020年8月-2021年5月

NPO法人YOU&MEファミリー／バングラデシュ (P7)

バングラデシュにおける女子生徒の経済的および社会的自立を目的とした洋裁クラブ活性化プロジェクト

2020年9月-2021年8月

特定非営利活動法人Little Bees International／ケニア (P8)

ケニアにおける循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業

2020年9月-2021年9月

特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness／ラオス (P6)

ラオス：少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり

2020年11月-2021年11月

Rwanda Children's Hope／ルワンダ (P8)

ルワンダの虐殺の影響と貧困の連鎖から地域の子どもたちが未来に羽ばたく教育の機会を継続的に提供

2020年12月-2021年12月

<チャレンジ枠> *2

チーム 夢のかけ橋／ブータン (P6)

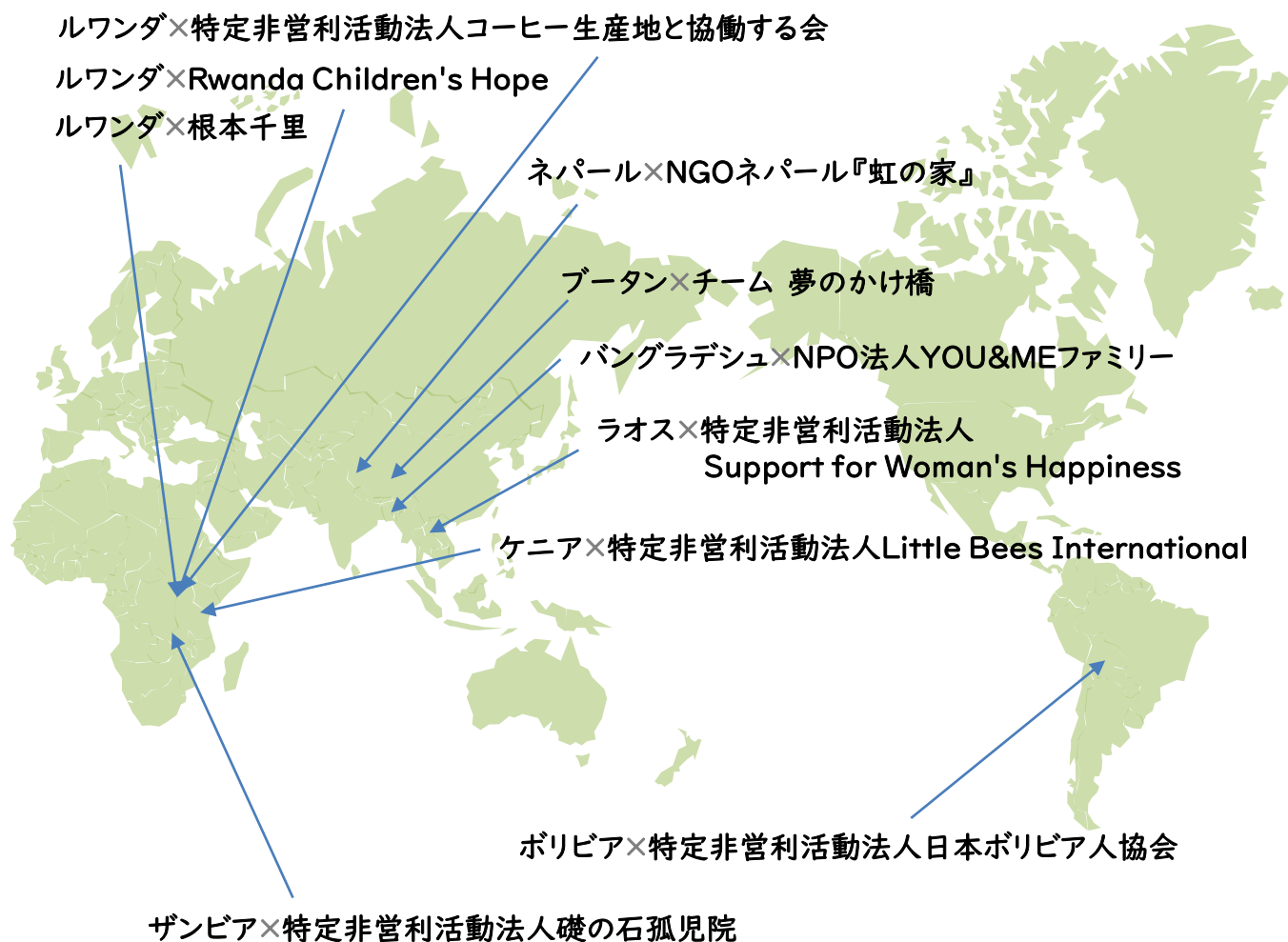
ブータンでの脳卒中デイサービスセンター設立のための人材育成

2020年10月-2021年6月

*1 通常、活動期間は1年以内としておりますが、コロナ禍を理由に活動の中断を余儀なくされたため、通算で1年を超える活動を行われた団体等もあります。

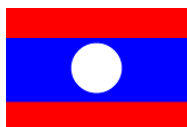
*2 チャレンジ枠は、経験が浅く、実績の少ない個人・団体を対象としております。

対象国×実施団体名



2020年度は、2019年度採択案件が5ヶ国で6案件
継続され、2020年度採択案件が6か国で6案件開始
されました。

本ニュースレターでは、ニュースレター2020で活動紹
介済の案件を除く10案件の活動を紹介いたします。



ラオス:少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり



対象国:ラオス

団体名:特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness

10 人や国の不平等をなくそう



8 働きがいも経済成長も



活動報告

ラオスでは障がい者や少数民族女性などへのサポートが十分ではありません。SWHはラオスの山岳部に暮らす少数民族の村を訪問・調査し、質の高い製品づくりのための素材作りを指導しています。民族女性たちが織り、染め、刺繍した素材を障がい作業所ソンパオで製品に活用し、民族の文化保護と障がい雇用の自立を促進しています。

最終的には障がい当事者が民族女性たちと自ら連携し製品の企画・製造・販売を行えるブランドに育てていくことを目標としています。現在、レンテン族やヤオ族といった少数民族女性の作る素材を活用しバッグや靴などを生産できるようになりました。

レンテン族の村の家族。女性たちの機織り、染色の仕事を支えました。



ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

コロナ禍で海外からの観光客が入れなくなり、民族女性たちの手仕事も障がい作業所の仕事も激減した1年間でしたが、こうして新たなプロジェクトを構築し指導製作することで輸出先が増え、女性たちの収入を支えることができました。また社会化されていない少数民族の女性たちに、製作にあたっての基準やルールなどを周知することで、今後の展開にも良い影響を与えることができました。

非常に厳しい1年の中、こうして生産者の生活と技術を支えるためにサポートいただけたこと、心より御礼申し上げます。障がい者福祉、伝統文化保護に興味をお持ちの方は是非、お問い合わせください。



ブータンでの脳卒中デイサービスセンター設立のための人材育成



対象国:ブータン 団体名:チーム 夢のかけ橋

活動報告

脳卒中に関わる人材を育成し、ブータンのリハビリテーションの底上げを図ることを目標に以下の活動を実施しました。

1. 調査 啓発

- 脳卒中の患者の実態調査・ニーズ調査 可能性調査
- 脳卒中の患者当事者および家族の家庭訪問・オンライン会議を通して聞き取り調査

2. ブータンでの技術講習会

藤原茂などの講師によるビデオカンファランスZOOM会議を実施し、健康トリム(自主トレーニング機器)や脳卒中のデイケアなどの技術講習会を小規模で実施

3. 脳卒中デイケア プログラムおよび訪問ケアプログラム小規模プログラム試行

小規模ケアプログラムを2020年11月～現在まで試行

4. デイケアセンター およびブータン脳卒中協会事務所開設

患者の自宅を訪問しての調査とケア



ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

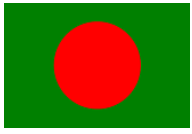
この事業を通じて私どもは、以下のことを学びました。

1. 赤裸々であることが、道を開く。2. 危機はインスピレーションが生まれるチャンス

この事業には主に4つの危機がありました。

(i) コロナの影響で当初計画した事業内容が全く実現できないという危機でした。(ii) 藤原先生の体調不調によるプログラム継続の危機 (iii) 経済的危機 (iv) カウンターパート事務局長ダワの人生の危機

こうした危機に直面しながら、前進できるのは、NGOだからこそ醍醐味ともいえます。こうした多くのチャレンジを乗り越えることができましたのも、皆様からのお力添えがあったからです。ほんとうにありがとうございます。



Bangladeshにおける女子生徒の経済的および社会的自立を目的とした洋裁クラブ活性化プロジェクト

対象国: **Bangladesh**

団体名: **NPO法人 YOU&MEファミリー**



活動報告

Bangladesh ガジプールにあるYOU&MEインターナショナルスクールは、すべての子どもが自分らしく生きられるように、クラブ活動などの日本の教育ノウハウを取り入れた学校であり、YOU&MEファミリーはこの学校を支援するNPO法人です。

今回のJICA基金活用事業では、このクラブ活動のうち洋裁クラブを活性化し、女子生徒の雇用機会の拡大と経済的・社会的自立を目指して女子生徒に縫製技術を取得させる活動を実施しました。具体的には、洋裁特別講師の招致と校内担当教師の育成、両者による生徒訓練指導、作品づくりと発表などを行いました。

縫製工場の多いこの地域にて、将来彼らの就職の可能性が増えリーダークラスで雇用されることを期待します。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

近年 Bangladesh は格差が広がり、貧困地域ではまだ女子の児童婚も多い現状です。その中で女子の自立を目指したこのプロジェクトに対し、生徒も担当教員もとても意欲的に取り組み、おかげさまで大きな成果がありました。洋裁特別講師の指導のもと、校内担当教師も電動ミシンをマスターし生徒に指導できるようになったことで、将来は校内担当教師のみで指導が可能になるでしょう。また将来的には完成した作品を近隣商店で販売し、次の材料費等に充てることが見込まれ、持続可能な活動になるでしょう。

Bangladesh では現在縫製業が盛んになっており、貧困層女子でも技術を取得することで自立の道が開かれます。どうぞこれからも温かく見守ってくださると幸いです。

自立に向けて縫製技術取得に取り組む女子生徒たち



2015年ネパール大地震 被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくりと学校教育支援事業

対象国: **ネパール** 団体名: **NGOネパール『虹の家』**



活動報告

ネパール大地震から6年。被災地サヌタリ村では、JICA基金を活用、農地を借り、ビニルハウスと水タンクの設置し有機栽培農業進み始めました。

作付け種類を増やし販路拡大を目指した矢先、コロナ禍によるロックダウンが始まり、人々は職を失い、学校は休校、外出は月一回の米、油、塩の購入という状況が続きました。しかし、その間、政府は農業だけは許可したのです。

2020年6月。食料が底をつくを見極めたカウンターパートは急きょ米作りを開始。JICA基金からは田んぼ用地レンタル料や管理費を拠出し、地域の食を支えることができました。

そしていま、農村部の女性たちには変化が見られます。女性たちの制作した商品は日本で販売へ、有機栽培野菜は学校給食へ提供など多様な取り組みの中に女性たちは自立の道を描いています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

虹の家の被災地支援事業はJICA基金に支えていただきました。サヌタリ村には、土曜子どもクラブ（学びと居場所）、女性の洋裁ミシン技術習得（職と収入）などのコミュニティ活動が継続されています。なかでも有機栽培農業は地域の食を守り、安定した暮らしを支える有望株の事業となりつつあります。

ネパールJICAデスク担当者の方はサヌタリ村、オクレニ小中高校、洋裁トレーニング場を訪問し、村の人や女性たちの声を受け止めてくださいました。村の人みんなが「ナマステJICA san」というと「JICA基金は日本のみなさんのドネーションですよ」と伝えてくださいました。

3年間、本当にありがとうございました。

2021年3月サヌタリ村にて 春の作付けを待つ女性たち





ケニアにおける循環型社会形成を目指した リサイクルバックの製作による貧困層の女性と 子どもたちのエンパワーメント事業

対象国: ケニア

団体名: 特定非営利活動法人Little Bees International



1 貧困を
なくそう



5 ジェンダー平等を
実現しよう



活動報告

どうしても日雇いの洗濯業や、路上での食材の調理販売といった限られた職種にしかアクセスできない、またHIVの感染率も高く、養う子どもたちも多い貧困層のシングルマザーの女性たちにとって、本事業が提供した、循環型社会形成のためのリサイクルバック製作活動は、女性たちに居場所を提供しただけでなく、自らのスキルに自信を持ち、不安や心配事を共有できる仲間たちとの絆の醸成にも大きくつながっています。ケニアで30年近くの活動実績のある日本のNGO アフリカ児童教育基金の会と協働で裁縫研修も行い、キャパシティビルディングにもつなげています。

バックには、団体が推進する循環型社会のキーワード「Mottainai」や「Stop Child Labors!」や「Education is Power」といったメッセージをつけることにより、SDG1・5・12の達成と、社会へのアドボカシー効果も狙いました。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

新型コロナウイルスによるパンデミックの状況が続く中、舵取りの難しい局面がいくつもありました。ですが、アフリカの女性たちの豊かな精神性とたくましさ、協調性を実感できる活動となっています。やはりしっかりとした居場所の提供が、活動へのコミットメントにもつながること、活動に参加するメンバー間の絆の関係性の構築が、草の根での活動での大きなモチベーションとなり、推進力となることも実感しております。リサイクル・エコバックづくりは、循環型社会形成のための大切な礎となっています。

どうぞ引き続き、脆弱な環境に置かれながらも地に足の着いた、たくましく前を向いて活動する、アフリカの女性たちの姿を温かくお見守りくださいましたら幸いです。

製作したエコバックと女性たち



ルワンダの虐殺の影響と貧困の連鎖から地域の 子どもたちが未来に羽ばたく教育の機会を 継続的に提供

対象国: ルワンダ 団体名: Rwanda Children's Hope



4 質の高い教育を
みんなに



1 貧困を
なくそう



活動報告

ルワンダ東部県ニャガタレ郡のサマリタン国際学校の教育の質向上を目標にしました。そこでは、基礎教育を受けたくても受けられない貧困・困窮世帯の子どもたちを地域で育て、貧困の連鎖を断ち切るため、日々活動しています。私たちは教師たちの声を聴き、子どもたちの学びを深める授業力を伸ばすため、ルワンダの学校教育で重視されている教科書と教科別指導書並びにポスター教材の活用、授業改善についてオンライン・セミナーを実施しました。

新型コロナ禍長期休校に加え、突然昨秋新設の空港隣接地として集落ごと移転が決定、コミュニティ再建と子ども達の授業継続を確保するためのチャレンジが続きましたが、教員も子どもも高い意欲を保ち、より深く学び続けることができました。7月の全国統一小学校卒業試験では、95%が最上位、5%という全国トップレベルの優秀な成績を収めることができました。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

サマリタン国際学校の教員の皆さんと学校運営NGOのIHCMをはじめ、保育園から小6までの全校315人の子ども達と保護者の皆さん、学校運営を精神的に支援する地域のシングルマザーの会の皆さんからも、日本の皆様の善意によるJICA基金の御支援に心から感謝していること、そして教科書を初めて活用して生徒の理解を深める授業ができ、試験では最高の結果を出すことができたことに感謝したい、というメッセージが届いています。

私立学校として貧困・最貧困地区での難しい自律運営に努力を傾注する中、新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンと長期にわたる休校、さらに集落移転等、学校の存続自体危ぶまれる困難に次々遭遇しましたが、皆様の温かい御支援が何よりも子ども達の未来を支える希望になり、皆が強い意欲と志を保って授業改善に取り組み、成果に繋がりました。

本事業を通じて、学校も団体も成長でき、深く感謝いたします。

子ども達のディスカッションを取り入れ、
学びを深める授業を実践





ルワンダのコーヒー生産地における持続的生産にむけた土壌改良及びポテト臭解決のための支援

対象国: ルワンダ

団体名: 特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会



15 陸の豊かさも
守ろう



活動報告

ルワンダ共和国は品質の高いコーヒーの産地ですが、栽培技術が低いことが農家の収入とコーヒーの収穫量を制限しています。特に、土壌分析をほとんどすることがないまま施肥を行なっていることが土壌中の養分の不均衡や生産性の低下につながっています。またポテト臭と呼ばれる人体には影響はないものの、味を阻害する異臭が発生することがあります。

本事業ではそれらの解決のため簡易な土壌測定器の導入から施肥方法の立案までのトレーニングをファイエのコアカ力協同組合に行いました。また紫外線を用いたソーティングによりポテト臭の検査方法の作成を行いました。その結果、コアカ力の農業技官が土壌測定から施肥計画の立案までを協同組合に提言できるようになったほか、バイヤーの要望によって紫外線によるポテト臭の検査を行えるようになりました。

検査結果から土壌改良方法を協同組合農業技官と計算している場面

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

皆様から頂いた寄付のおかげでルワンダの小規模農家の生産性向上を支援する取り組みができました。ポテト臭の問題はなかなか簡単に取り除けるものではありませんが、生産現場で行う一つの改善方法を協同組合で作ることができました。誠にありがとうございます。

ルワンダのコーヒーは優しいバランスの良いコーヒーですので、お店で見かけた際はぜひお試しくださいと幸いです。

特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会では今後も世界の人々のためのJICA基金事業から得た結果を活かしながらルワンダの小規模農家とともに活動をしていきたいと考えています。この度は誠にありがとうございました。



グルテンフリーやビーガン商品を扱うベーカリー事業を通じたルワンダ女性の自立支援

対象国: ルワンダ 団体名: 根本 千里

活動報告

ルワンダでは、ビーガンやグルテンフリーを取り扱うカフェが少なく、量販店では輸入品の高価な豆乳しか販売していないため、グルテンフリーやビーガンのパンや焼き菓子、豆乳を作り・販売することで雇用を増やし、シングルマザーや売春で生計を立てる女性の自立支援をしたいと考え活動を開始しました。2019年10月より開始した本事業は2021年9月31日に終了となりました。

ベーカリー販売は販売期間は2020年3月20日COVID-19による空港閉鎖措置、また4月2日付けのJICA避難一時帰国該当国となり事業中断となるまでの3ヶ月弱でしたが、受益者である女性たちは調理方法を学び事業実施期間収入を得ることができました。最終ミーティングでは、受益者から「今後は自分で事業を始めて売ってみたい・人に教えていきたい」といった発言だけでなく、「調理方法は日々の生活で活かされている」との声も聞かれました。また収入を得ただけでなく、活動を通じて日々家計簿をつけ借金返済や学費工面のためのアドバイスを行ったことで、貯金の方法を学び未来を予測してお金を使えるようになったという受益者もいました。

試食を兼ねて休憩中

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

COVID-19の影響で当初の計画通りとはならない活動ではありましたが、本事業を通じて異文化交流が受益者に新しい経験や知識を与えたことは活動の中で大いに感じました。今後は彼らの夢を実現しながら自立できるようにフォローアップし、例えば一人の受益者は「自分で小さな商店を持つことであるため、事業を通じて学んだ調理を活用して商品を販売したりできるように遠隔で継続したアドバイス・支援を行なっていく予定です。

この活動は受益者だけでなく、商品開発やマーケットで関わった在住外国人、教会の人々からJICA関係の皆様まで多くの人々との対話によって生まれた成果であり、事業運営を通じて人々とじっくり話し合い、アドバイスをもらうことは本事業の強みでもあったと実感しており、このような貴重な機会をくださった皆様に変感謝しております。





ザンビア共和国:孤児およびストリートチルドレンのための奨学金支援事業

対象国: ザンビア

団体名: 特定非営利活動法人礎の石孤児院



活動報告

南部アフリカのザンビア共和国、首都ルサカにて、ストリートチルドレンの保護、養育活動と、スラムでのHIV 孤児のための学校運営を行なっています。

ストリートチルドレンのほとんどは、①家に食べ物が無い、②学校に行けてない、③虐待を受けているという要因により、路上での生活を選ばざるを得なかった子たちです。しかしながら、空腹や痛み、トラウマ等から逃れるために、安価なドラッグに手を出し、そこから中毒、暴力、犯罪へと手を染めていってしまうケースが多くあります。そしてその更生には時間がかかるのです。

そのため、現在では、子ども達がストリートに出してしまう前の段階で救済する目的も兼ねた、朝・昼の給食を提供する学校運営もスラムにて行なっています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

保護したストリートチルドレンの多くは、ドラッグ中毒を抱えてきます。ドラッグへの欲求は、空腹と密接に結び付いているため、空腹を感じることは大敵です。また、路上にいる時に夢だった「学校に行きたい!勉強したい!」という願いを叶えるために、毎日の授業を行いました。

以前は日々の経済の不足に悩まされていましたが、皆様のご寄付により、1年間、安心して1日3食を提供し、勉強を続ける事ができましたことは、本当に大きな助けでした!

また、孤児のための学校も、文房具や靴等を購入することによって、今まで学校に通えていなかった孤児たちが、ようやく教育を受けれるようになり、貧困から抜け出す大きな一歩を踏み出すことができました。本当にありがとうございました!

昼食を楽しむストリートチルドレン



アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

対象国: ボリビア

団体名: 特定非営利活動法人日本ボリビア人協会



活動報告

ボリビアの貧困層の生産するアルパカ毛を日本で製品化し、日本でのアルパカ製品販売を拡大、ボリビアの貧困層の収入を増やして生活水準を向上し、在日ボリビア人の抱える問題(高齢化による就労場所の減少、生きがいづくり等)を改善したい理由から、ボリビアでアルパカ毛を生産する貧困層のコミュニティと、アルパカ毛の日本での製品化・販売拡大に向けた協働体制を構築し、現地でアルパカ毛を生産するグループの生活向上に貢献することで生きがいを創出する事を目的に、プロジェクトを始めました。

ボリビアへ直接出向いて、アルパカ毛系の生産者を交え品質、生産環境、生産規模を調査。日本では地域住民のアルパカに対する認知度を知り、ターゲット年代の趣向に対するイメージをつかみ、それらの結果を踏まえ多くの方が購入しやすい商品を製作するため、10個の質問からなるアンケートを実施。アンケートを基に在日ボリビア人による編み物研修の参加者募集をし、在日ボリビア人による編み物研修に向けて研修講師に編み図作成及び見方のレクチャーを依頼、在日ボリビア人による編み物研修及び、パッケージ、タグ付け研修を行いました。

現在、日本ボリビア人協会のホームページにて作成されて編み物製品の販売に向けて準備しています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

まず、初めにプロジェクトを実施するにあたって、ご協力頂きました皆様に心から感謝しております。当団体にとっては初めての試みでしたが勉強になりました。日本では編み物教室は生徒たちが元気よく、楽しんで学んでいる姿に感銘を受けました。ボリビアでは日本にも通じる職人たちの心意気を感じることができ、多くを学べました。このプロジェクトはまだ完成には至ってはいませんが、これまで進めることが出来たことを感謝し、このプロジェクトをより発展できるように頑張っていきたいと思います。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

アルパカ毛に関するワークショップ



1 貧困をなくそう



8 働きがいも経済成長も



2020年度 収支報告

2020年度(令和2年度) 世界の人びとのためのJICA基金寄附実績		
	件 数	金 額(円)
個人	619	4,716,869
法人・団体	59	17,977,183
合計	678	22,694,052

2020年度(令和2年度) 寄附金使用実績		
	件 数	金 額(円)
配分事業 (2019/2020年度採択案件)	11案件 [*]	3,965,220
運用経費 (2020年度寄附金収入額の10%以内)	寄附金システム費 その他	648,990
次年度繰越		18,079,842
合計		22,694,052

- 2020年度中に「世界の人びとのためにJICA基金」の寄附金を事業に活用した11案件のうち、「ニュースレター2020」に活動報告掲載済の案件は、本ニュースレターへの活動報告掲載を省略いたしました。

各実施団体のより詳しい事業内容は、
下記サイトの「事業完了報告書」にあります。

ぜひそちらもご覧ください！

JICA寄附サイト：

<https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金 ニュースレター2021
発行：独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL:0800-100-5931 (寄附専用ダイヤル)